

# 令和四年 節分厄除星まつり



●日時 令和四年二月四日（金）午後六時半～ 真言宗 金剛山 弘浄寺

節分と星まつりのおはなし・・・

節分とは季節の分かれ目をいい、実は年に四回あります。春から夏、夏から秋、秋から冬、冬から春ですね。その中でこの二月をどこでも「節分、節分」とよくいうのは、それは一年の始まりにあたるからです。え？一年の始まりはお正月でしょ！と思われるでしょう。確かにそうですが、現代の暦（カレンダー

）は明治五年に欧米諸国に合わせ改暦された暦（太陽暦）なので本来の暦とは約一ヶ月違うのです。

改暦前の日本では旧暦で生活し季節を表す言葉もすべて旧暦で唱えられています。例えば「新春のお

喜びを申し上げます」や「桃の節句」「七夕」などがそれにあたりますが現代では言葉と実際の季節とはか

け離れていますね。「新春の・・・」と言いましてもお正月はまだ真冬です。また三月はじめも「桃の節句」と言いますがまだまだ桃の花が咲く兆しありません。七月はじめの「七夕」の時期は梅雨空で星を眺めることなどできません。

もうお分かりでしょうか、この大自然と一致した本来の暦は旧暦であり、現在の暦は約一ヶ月のズレがあるのです。つまり二月はじめのこの節分が年のはじまりにあたるのです。

そして、当寺の真言宗では星まつり、とも言いましてご自分が司られているその年の星（当年星）を供養し厄を払うのです。人もこの大宇宙の生き物であるわけですから人の一生もすべて自然の摂理と繋がり宿命をもって生まれ、運命をたどり、いずれ亡くなるのです。

この節分星まつりは運命を司る本命星、またその年の運氣を左右する「当年星」を護摩という炎をあげ神仏を招き、供物や読経のお供えをし、祈念するわけです。そして大難は小難に、良いことはもつ

と良くなるようにと祈願し災難を除けるのです。生きているからこそ辛く、物事が思うようにはいきませ

ん、そんな時こそ天空の夜空を見上げご自身の星を覗いて祈ってください。必ず良い智慧が見つかるもので

すよ。真言密教（仏教の一つ）である当寺院では先に申し上げた星供養を修法できる寺院にな

ります。真言密教とは弘法大師空海が西暦八〇四年に遣唐使船で中国長安（現在の西安）より



渡りもちかえり、当時困窮していた日本を救済した教えです。